



患者さんに優しい 呼吸器診療

患者さんに優しい医療をめざし、常に最新・最良の医療を行うよう努力している。呼吸器疾患は多岐にわたるが、当科では間質性肺疾患、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、喘息・慢性咳嗽、睡眠時無呼吸・呼吸不全、呼吸器感染症、肺腫瘍のそれぞれの臨床・研究グループを設け、各分野におけるスペシャリストを育成し、外来・入院診療や院内外のコンサルテーションにおける多様な要求に対応できる体制をとっている。COPD、慢性咳嗽、間質性肺疾患、睡眠時無呼吸などの専門外来は国内において大変希少であり、さらに画像や呼吸機能など疾患横断的な領域についても、スペシャリストによる複眼的評価を行っている。高い専門性を保ちながら、総合的、全人的に診断・治療を行うことで、質の高い診療の提供をめざすとともに、新規治療法の開発などより良い医療に向けての研鑽に努めている。

代表的診療対象疾患

COPD、気管支喘息、慢性咳嗽、間質性肺疾患、サルコイドーシス、肺結核、肺非結核性抗酸菌症、肺炎、呼吸不全*、睡眠時無呼吸症候群*、肺がん**
(呼吸管理・睡眠制御学講座*、外来がん診療部**と連携して診療)

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

高度かつ専門的な外来を設け、幅広い呼吸器疾患に対応できる体制を整えている。禁煙外来も行い、難治例への禁煙治療法の確立に力を注いでいる。外来受診者数は、延べ43,186人と増加しており、内科系診療科の中でも多い。

入院診療体制と実績

病床は、積貞棟4・5階と北病棟1階に計63床[うち結核病床(北病棟1階)15、呼吸管理・睡眠制御学講座(積貞棟4階)4]である。1年間の入院患者数も延べ20,191人と当院の内科系で1番目に多い。種々の合併症をもつ患者さんが多いなか、平均在院日数は10.8日を維持している。他部門との連携体制も確立しており、呼吸管理・睡眠制御学講座、リハビリテーション科、ICTとの連携を含め、がんセンターと連携して肺がんの集学的治療を行い、呼吸器外科と連携して肺移植目的での紹介例

の評価、治療も行っている。また、地域の医療施設とも病病連携、病診連携を推進している。いずれの疾患領域においても、専門的知識を要する難治例を積極的に受け入れ、診療にあたるとともに、ガイドライン作成や厚生労働省事業の調査研究、多施設共同臨床研究などに携わり、本邦の呼吸器疾患診療の進展に貢献している。



臨床研究・地域医療への取り組み

多様な臨床研究を展開

◎重症から最重症のCOPD患者を対象に、チオトロピウム+オロダテロール配合吸入剤の1日1回52週間吸入投与時のCOPD増悪に対する効果をチオトロピウム吸入剤投与群と比較する、ランダム化、二重盲検、実薬対照、並行群間比較試験 [DYNAGITO] 上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤による治療後に進行が認められた、上皮成長因子受容体遺伝子においてT790M変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に、AZD9291と白金製剤を用いた2

剤併用化学療法を比較する第Ⅲ相非盲検無作為化試験(AURA3)

◎2015年1月、日医生涯教育講座セミナー京都府「COPD診療にいかに関与するか」～かかりつけ医における実戦COPDの診断と治療～、2015年2月、第21回アレルギー週間市民講座in京都開催”アレルギーとうまく付き合うために”、他多数